



おやさと研究所では、今春『エコロジーと宗教性の深化』を上梓しました。当研究所として初めての電子書籍です。学術研究出版 BookWay およびアマゾンのウェブサイトから購入していただくことができます。今回あらためてご案内いたします。

本書は「宗教と環境」をテーマ

とした3年にわたる研究会での議論が基本となっています。研究会では、お招きした各方面の専門家の方々の基調講演に当研究所の研究員が天理教から応えるというような形で行われました。本書を刊行するにあたり、佐藤孝則研究員(当時・本企画担当者)は、次のように述べています。

環境問題は地球的(グローバル)な課題であるとともに、地域的(ローカル)な課題と考えられている。一例をあげると、火力発電による温室効果ガスの増大(グローバル)と、酷暑時のエアコン使用に伴うエネルギー消費(ローカル)は、それぞれ別々の課題とされているが、温暖化問題解決のための科学・技術の応用を図る点では、共通している。……そのような中、課題解決のためには両者の視点を併せもつ考え方、つまり「グローバル」なアプローチが重要だと認識が広まりつつある。それは「二者択一」ではなく、「二つを一つに止揚する」考え方、すなわち「二つ一つ」という概念である。……ここでいう「二つ」とは、……科学的課題と、それを側面から制御すべきはずの環境倫理の二つを、あえて「一つ」に収斂させるという考え方である。それは科学的課題と哲学・宗教的倫理を共存させ、深化させる考え方である。たとえば、エコロジーと宗教性を「一つ」にする視点でもある。……環境問題と宗教倫理を対等な視点で捉え議論する「グローバル」な研究は、一つの新しい解決策へ導く手段として有効な方法と考えることができる。それぞれ異なる専門的立場・視点から議論し、叡智を出し合うことこそ、いまこそ求められる研究スタイルの一つではないかと考える。……研究会は、同研究所天理自然・人間環境学研究室が「『環境問題における宗教者の果たすべき役割』に関する研究」の一環として実施したものである。この「『環境問題における宗教者の果たすべき役割』に関する研究」を始める契機となったのは、平成23年3月11日に起きた東日本大震災だった。

本書では、研究会の成果を6つのテーマに分けて、章立てしました。以下に目次を記します。大変興味深い内容となっています。是非、ご一読くださいますようお願いいたします。なお、本書は、研究所および道友社販売所では取り扱っておりません。ウェブからのご購入となります。ご了解くださいますよう、お願い申し上げます。

第I章 身近な「エコロジー思想」

- 1 己事究明としてのエコ・フィロソフィ/竹村 牧男
- 2 エコフェミニズムと宗教—「いのち」の射程—/金子珠理
- 3 社叢文化を軸としたマチづくりの構想/園田 稔
- 4 山高きが故に貴からず/佐藤浩司

第II章 科学・技術と宗教性

- 1 科学技術の進展とエネルギー/吉澤正人
- 2 科学・技術と素人/辻井正和
- 3 地球温暖化問題に対する宗教者の役割—我が国の最新の温室効果ガス排出・吸収量の算定結果と国際交渉における次期約束期間の今後の展望について—/早瀬百合子
- 4 環境問題を天理教の視点から考える/佐藤孝則

第III章 途上国のエコロジー問題

- 1 ネパールでの環境保全活動の実践例/アミーラ ダリ
- 2 「この世は神のからだ」—ラブ グリーン ネパールに学ぶ—/堀内みどり
- 3 コンゴ共和国オザラ国立公園—マルミミゾウの畑荒らし問題解決への挑戦—/萩原幹子
- 4 途上国への環境保全支援と宗教者の役割—天理教のアフリカ伝道を通して—/森 洋明

第IV章 エコロジー運動の現状

- 1 資源リサイクルと障がい者雇用/華谷俊樹
- 2 環境問題と社会福祉/八木三郎
- 3 仏教者とエコロジー—僧侶による電力小売事業参入—/本多 真
- 4 宗教者として、丁寧に皺をのばす/深谷耕治

第V章 災害復興支援と被災者ケア

- 1 被災者ケアと宗教者の役割—寄り添い、連携することの力—/島 進
- 2 天理教による東日本大震災の支援活動—緊急「支援」から復興「支縁」へ—/金子 昭
- 3 宗教的利他主義と災害支援/稲場圭信
- 4 災害復興支援と天理教/岡田正彦

第VI章 宗教倫理とライフスタイル

- 1 宗教倫理学の展望と宗教者の役割—エネルギー政策を語るために—/小原克博
- 2 「慎み」のライフスタイルとその実践—宗教倫理学の展望と宗教者の役割—/澤井義次